

要 請 書

今なお「原子力緊急事態宣言発令中」です 玄海原発再稼働に同意しないでください

2017年2月27日

玄海町長 岸本英雄 様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会
玄海原発反対からつ事務所
今を生きる会

2月24日、玄海町議会原子力特別委員会は玄海原子力発電所3・4号機の再稼働について同意しました。

私たちは当日傍聴しました。九州電力は「安全です」という説明に終始しました。

再稼働に唯一反対する議員が避難計画や使用済み核燃料の最終処分場問題について質すと、委員長は「私の発言中に、黙れ！」「最終処分がどういう関係があるのですか？」「避難対策とか全般的な外れの質問じゃないか」と質問を封じ込め、九電に対して「答弁する必要なし」と指示しました。耳を疑うものでした。

田中俊一原子力規制委員長自ら「審査はするが安全とは申しあげない」と事故が大前提の発言をしているのです。避難計画や最終処分場問題の議論は、再稼働の是非を総合的に判断するために不可欠で当然のことです。

東京電力福島第一原発は6年経った今なお、「原子力緊急事態宣言発令中」です。フクシマの格納容器は途方もない650シーベルトという現場です。フクシマは事故の最中です。再稼働どころではないはずです。

田中規制委員長は、佐賀新聞のインタビュー(2月16日)で「原発から5キロ圏外の住民に急性の放射能被ばくで問題が生じることはありえない」「福島第一原発の事故でさえ、サイト内外で放射能被ばくによる健康影響は一人も出ていない」と断言していますが、因果関係が分からないことを理由に結論づけていることに、私たちは不安でなりません。

玄海原発で事故が起きれば被害は玄海町にとどまりません。佐賀県内はもとより福岡、長崎、ひいては世界中の人々の生活に影響を及ぼすことは、フクシマで明らかとなりました。その人々の命と財産に貴職の判断が大きな影響を与えるのです。重大な責任ある立場と自覚していただきたい。

岸本町長は町議会の再稼働同意を受けて、来月上旬に同意を正式表明する方針と言われました。

玄海原発は5年余り全基が止まったままです。電気は足りています。玄海町は自然がいっぱいです。それは生きるための財産です。水や山や川や虫やたくさんの自然を今のまま残すことこそ今を生きている私たち大人の責務です。未来の人々へ普通の生活をつなぐこととなります。

私たちは、原発の被害地元住民として貴職に強く要請します。

要 請 事 項

玄海原発再稼働に決して同意しないでください。

<提出団体>上記4団体

<賛同団体>全国から129団体(別紙)

連絡先：玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会（永野） TEL：090-3949-2103